

# 令和7年度

## 各種研究委員会 活動報告書

教育課題ア(塩尻1・中央)	委員長	大野幸子 先生 (山形小)
教育課題検討ウ(塩尻2)	委員長	関山菜穂 先生 (塩尻西小)
教育課題検討イ(北部)	委員長	前山夕貴 先生 (生坂中)
学力検討		
道徳教育		
書道展	委員長	今井洋子 先生 (桔梗小)
科学展	委員長	丸山華代 先生 (朝日小)
美術展	委員長	北村知香 先生 (片丘小)
読書感想文	委員長	才田理恵 先生 (聖南中)
会誌・会報	委員長	元田武久 先生 (両小野中)
資料室	(委員	上條達則 先生 (山形小))
情報ネット	委員長	鈴木百合恵先生(広丘小)

公益社団法人東筑摩塩尻教育会 各種研究委員会

# 教育課題検討委員会(塩尻1・中央)活動報告書

①

## 1 委員氏名

◎大野 幸子(山形小) 山崎 将文(広陵中) 中 久美子(丘中) 武田 真(桔梗小)  
平出 絵里(片丘小) 大内 順平(広丘小) 濱島 千絵(吉田小) 中澤 往訓(朝日小)  
百瀬 みさ子(世話係 山形小)

## 2 研究主題

「不登校・不適應の児童生徒への校内体制づくりと支援のあり方」

○各校の取り組み・情報交換・検討 ○各校の課題 ○各市村の取り組み

## 3 活動の経過

5月29日(木) 第1回委員会 研究主題および研究内容の検討  
7月 8日(火) 第2回委員会 不登校・不適應の児童生徒に関する各校の現状と課題  
9月 4日(木) 第3回委員会 // 取り組みと課題解決へ展望(取り組みそうなこと)  
11月28日(金) 第4回委員会 研究のまとめ、今年度の反省、来年度への要望

## 4 研究の経過と課題・反省

### (1)成果

- ・行政や各校の事情は違うことが多いが、実態や課題を共有することから始めたことで、各校の取り組みについて情報交換ができた。
- ・各校の取り組みについて共有することは、大変有意義であり、参考になる。昨年度より、さらに不登校不適應の児童生徒への対応や環境づくりを各校で工夫して進めていることがわかった。特に、一村一校の場合は他校の様子を知るだけでも参考になった。
- ・情報交換の成果を、自校での取り組みに活かす委員もいた。

### (2)課題・反省

- ・毎回の情報交換で、たくさんの取り組みや経過を得ることができたが、委員会として統一した結論を出すことはできなかった。
- ・不登校不適應と学力との関連は大きいと、どの学校でも取り上げられ、検討されている。昨年度の反省もあり、「学力保障」について各校の取り組みを紹介することはできたが、より深めることはできなかった。

## 5 運営上の課題と来年度への要望

- ・会合は4回行った。学校行事等により全員で集まって行えないこともあったが、4回でも活動できた。
- ・不登校不適應の児童生徒への校内体制についての研究は、昨年度からの活動であったため、研究主題は、昨年度と同様にした。
- ・各校の取り組みは、必要感ほどの学校でも同じであるが、実態に合わせ、体制づくりや環境整備を工夫して構築している。その取り組みを情報交換して、自校で活かそうなことを広めていくことを活動の中心にしていくことでよいのではないか。
- ・来年度は、「学力保障へのアプローチ」「児童生徒の居場所づくりについての情報収集・リストづくり」などを行い、より検討を重ねていかれるとよい。

## 6 研究内容

- 各校の課題は複雑で多岐にわたる。多くの課題を以下の3点に絞って情報交換した。場所の確保や職員配置など困難なことも、実態に合わせ、各校で工夫して取り組んでいることがわかった。

### (1)未然防止の取り組み

○職員会は月1回の全職員情報共有の時間にし、参加する係やメンバーを変えて頻度を多くしている。

①情報交換や情報共有…全職員が迅速に把握するために

- ・教務会、職員会、学年会などでの情報共有は、どの学校でも行っているが、開催の頻度が多い学校もある。
- ・生徒指導連絡会での情報交換(不登校不適應生徒の近況)で他校の様子も知ることができる。
- ・集団行動ができない生徒への対応(保護者との連携・緊急時に動ける体制づくり)
- ・欠席児童生徒の把握と早期の対応をしていく。
- ・小中連絡会での引き継ぎで細かな情報交換でスムーズに移行できるようにする。

②アンケートの実施と活用・相談の場づくり…児童生徒の客観的な実態把握のために

- ・学校生活アンケートの実施(6月と11月など年2回が多い)と児童生徒との面談時間や相談週間の設定  
…「児童生徒と担任が1対1で話す時間の確保」を大事に、多くの学校で取り組まれている。
- ・特別活動や休み時間の姿から実態把握(チャット)や声がけ…実態をすぐに把握し対応に活かす。
- ・WebQ-Uの活用
- ・塩尻市「ぼーち」の紹介と活用…市教委と連携

### (2)不登校・不適應の児童生徒への対応

○空き教室を学習室・中間教室などに決めて、居場所づくりを工夫している取り組みが今年度は多かった。

○職員の配置が難しいので、外部と連携したり、専門的な立場や校外での居場所にも委ねたりして、様々な人とかかわり、多くの眼で児童生徒を見守ることが望ましいのではないか。

- ・各校独自の居場所づくりや中間教室、校内教育支援センターの設置(担当職員と担任の情報共有・連携)
- ・塩尻市「子と親の心の相談員」
- ・学びの教室や塩尻市教育支援センター「高ボッチ教室」
- ・塩尻市フリースクール「ピカソ」…新規で開所され、利用者もいる。校外でも居場所が複数になる。
- ・塩尻市ホームページ内「らしく学び、らしく生きる」(サイト)の紹介
- ・外部機関の活用

### (3)学力保障に関する取り組み

・リモート学活やタブレットのアプリ利用で学習に気持ちが向くようにする。

・校内自習室や校内教育支援センターの設置により、登校時の居場所が増え、学習環境が整ってきている。

・宿題の提出<学習習慣の確実に>こまめに手を入れる。(放課後の指導)…中学校での学習習慣形成のための取り組みだが、未然防止の取り組みにもつながる。

・いずみ塾<塩尻市が連携>を月1回程度の活用でも、学習が進むと登校への意欲が出てきた児童もいる。

○各校・各担任で思いつくことをやってみるが、やはり課題は多い。

・国語や漢字は取りかかりやすく、自分でも進められる。算数は保護者も教えるのが難しい。不登校が長く続いている児童も担任もどこから手を付けていいかわからない。

・安定して登校できることが第一になり、学習はその次になることが多い。保護者と同じ認識が大切。

・定期的に学習する習慣が身につくと、中学校への移行もスムーズに登校できる児童もいる。

・支援が必要な児童には、中学進学前には市や中学校職員とも移行支援会議を開き、小から中への丁寧な移行を心がける。

○各校の不登校・不適應の児童生徒への取り組みから、単に「登校の有無」や「学習の実施状況」を判断軸にするのではなく、実態に応じた居場所づくりと学校とのつながりを切らないための柔軟な支援体制の構築が大切であると感じた。

# 教育課題検討（塩尻2）委員会 報告書

## 1 委員氏名

世話係 伊藤 尊夫（塩尻西小学校長）

◎関山 菜穂（塩尻西小） 朝日奈 佐（塩尻西部中） 柳沢 勇斗（檜川小中） 橘幸恵（宗賀小）  
渡澤 幸弥（塩尻東小） 湯本 祥平（塩尻中） 濱 賢一（両小野中） 西原 正裕（洗馬小）

## 2 研究主題

「GIGA スクール 一人ひとりが ICT の善き使い手をめざす学びのあり方について」

## 3 活動の経過

5月29日（木） 第1回委員会（塩筑教育会館）

- ・研究主題および研究内容の検討

7月8日（火） 第2回委員会（塩尻西小図書館）

- ・各校でのタブレット使用のきまりに関わっての様子や、取り組みについて情報交換を行う。
- ・各校におけるICT推進に関する悩み・課題等について集約を行った。

9月9日（火） 第3回委員会（塩尻西小図書館）

- ・前回に引き続き、各校での様子や取り組みについて情報交換を行った。今回は特に課題となっている点について、前回より詳しく情報交換を行った。
- ・また、課題に対して解決方法として実践していることについても情報交換を行った。

11月20日（木） 第4回委員会（塩尻西小）

- ・研究まとめ、報告書について（意見交換）
- ・次年度への課題、教育課題検討委員会の方向性について（意見交換）

## 4 研究の成果と課題

### （1）成果

- ・小中学校でのICTを利用するうえでの課題や、それに対する対策について校種を入り交えて検討することができた。

### （2）課題・反省

- ・今年度、市でリーディングDXの指定校になっている学校があり、「そこと内容がかぶらないことをやるべきだ」という話から研究が始まった。市と教育会で似たようなことを今後もやっていくのであれば、研究内容や委員会自体の在り方について考えていかねばいけないのではないかな。

### （3）教育課題検討委員会 来年度のテーマ

- ・（2）であげたように、まず来年度市の方ではICTに関してどのような取り組みをしていくかによって、テーマを検討する必要があるのではないかな。そこと重ならないのであれば、

## 5 運営上の課題と来年度への要望

- ・委員会の回数は5回の予定であったが、熊対応で急遽日程を変更したこともあり、4回に減らした。4回目は半分以上の先生方が参加できなくなってしまったので、もう少し人数が集まればよかったが、なかなか日程的なことや、多忙な中で調整はできなかった。
- ・今年度はグーグルチャットを活用し、連絡や資料をいただいたり、情報交換もしたりすることができてよかった。
- ・メンバー構成は、小学校中学校双方から選ばれていて、小・中双方の実情を知ることができた。学校による方針の違い、取り組みの違いなどが明確になったことで、教育現場における課題がはっきりしてきた。次年度同じ教育課題で委員会を構成するのであれば、小学校と中学校で連携して取り組むためにも、小・中双方から委員を選んでほしい。
- ・前年度から「次年度はこの方向で」というものがないまま委員会がスタートしていて、毎年同じような内容の検討になってしまわないのかという点が課題。また、研究会で発表しても、ごく一部の先生方にしか内容が伝わらずに終わってしまい、何回も集まって委員会をやる意義があるのかどうか。せっかく研究を進めているので、例えば市内チャットで塩筑教育会のグループを作り、現場に生かせる情報を発信するなど、どの先生でも情報が気軽に見られて今後に生かせるシステムがなければあまり意味がないのではないか。
- ・一部に負担が偏るのを防ぐために、副委員長も立てた方が良いのではないか。仕事を分散させてもらえるとうありがたい。

## 6 研究内容

### (1) 学校全体で取り組むべき ICT 利用の「基本姿勢」

タブレット利用のルールや目的を「担任任せ」にせず、学校組織全体で一貫した指導を行うことの重要性が示唆された。

項目	小学校の示唆・提案	中学校の示唆・提案
全校オリエンテーション	年度初めに情報担当等が中心となり、全校児童や低学年・高学年ごとにルールの確認や利用目的の共有機会を設ける。	年度の初め（できれば学期ごと）に、全校で決まりや目的を再確認する機会を設ける（特に「使うのが当たり前」になっているからこそ必要）。
ルールの視覚化と徹底	授業中は使わない時「端末を閉じる」など、具体的な行動ルールを常に示し、日頃から確認を徹底する。	「使用〇ヶ条」などきまりを配布し、確認できるようにしておく。

項目	小学校の示唆・提案	中学校の示唆・提案
初期の「出会い方」	低学年・小学校で使い始める際の導入（出会いの場面）の設定方法や、保護者への目的・使い方の伝達方法が重要。	

## (2) 児童生徒の成長段階に応じた課題と対応

子どもの発達段階に応じて、課題の性質と解決策が異なることが明確になった。

### ★ 小学校（自律が難しい段階）

課題の性質	具体的な課題例	解決策/示唆
未熟な自律性	目の前の刺激につい触る、関係ないものを見る、パスワードを勝手に変える。	児童が自分で判断が難しいため、教師による制限も必要。（常にルールを示す、使わない時は閉じるなど、基本動作の徹底指導。）
依存性・中毒性	ゲーム性の強いアプリ（タイピングコロシウムなど）による依存性、イライラ、落ち着きのなさ。	教師が児童の実態をみて、アプリ利用に制限をかける線引きの必要性。
基本ルールの徹底	充電忘れ、持ち帰りをしても持ってこない、なぜ使うのかを理解できていない。	児童への声かけや低学年でのオリエンテーションとともに、保護者にも理解してもらえるよう、参観日の折などに説明の機会を作っていく。

### ✦ 中学校（自律をめざす段階）

課題の性質	具体的な課題例	解決策/示唆
自律性の課題	休み時間に YouTube を見て会話が少なくなる（利用制限の少なさによる）。	「自分で考えて決めていく力=自律」を目標に、目的意識の確認を徹底する。
所有意識の課題	自分のもののような感覚になり、扱いが雑になる。	日頃からの声かけ。学期ごとなどに使い方のふりかえり。
思考力の課題	見栄え（デジタルでの表現）ばかり気にして、肝心な中身が伴っていない（考える力がついていないのか）。	教師側でも学習の目的を明確化しておき、生徒たちに思考させる場面設定や単元展開を仕組んでいく。

#### (3) デジタルシチズンシップ教育と家庭連携

情報モラルや情報リテラシーの指導において、「実践」と「家庭との連携」が不可欠であると示唆された。

- 情報の読み方指導は「実践あるのみ」：「AIによる概要」に頼るだけで先の情報を読まない問題に対し、社会科などの授業で情報の読み方を学べる実践を組み込むことが有効。
- 家庭連携の具体的な提案：「情報週間」などを活用し、学習動画を親子で見る課題を出すなど、家庭と連携した情報モラル学習を推進する。
- 専門家との連携：ネットモラルの講演会などは、なるべく早い時期に行い、意識付けを行う。
- モラル学習の全校展開：情報週間では、スプレッドシート等を活用し、どのクラスでもモラルについて取り組める工夫をする。

#### (4) デジタル・アナログの使い分けの重要性

タブレットを「文房具」として適切に使うための、ツールの特性理解と判断力を育む必要性が示唆された。

- 課題の明確化：調べる、書く行為がタブレットばかりになり、「書く力」や「考える力」に影響があるのではないかという懸念。
- 指導の必要性：児童生徒が、課題や目的に合わせ、デジタルとアナログを使い分けられるよう指導していく必要性。

## (5) 今後の研究の方向性

研究テーマである「善き使い手」をめざす学びのあり方は、以下の二点を両輪として進める必要があるのではないか。

1. 「教師主導のルール徹底」：自律が未熟な段階（特に小学校）では、学校全体でのルールの徹底と、制限の必要性。
2. 「自律を促す目的意識の共有」：成長段階に応じ、使用の目的や意義を常に考えさせる機会を設け、自律的な判断力を育成する。

## 教育課題検討イ（北部）委員会活動報告書（案）

## 1 委員氏名

- ◎ 前山夕貴（生坂中） 杉山勝美（聖南中） 児玉充司（筑北中）  
清野寛代（生坂小） 竹内良康（筑北小） 小松 誠（麻績小）

## 2 研究主題

「北部の子どもたちの自立に向けての支援のあり方と、教務主任としてのマネジメントのあり方」

## 3 活動の経過

- 5/29(木) 第1回教育課題検討委員会 会場：塩筑教育会館  
テーマ決めだし、年間計画確認、情報交換
- 7/28(月) 第2回教育課題検討委員会 会場：生坂中学校  
テーマに関わって、具体的な取り組みについて  
レポートを持ち寄って検討、情報交換
- 10/20(月) 第3回教育課題検討委員会 会場：生坂中学校  
テーマに関わって、具体的な取り組みについて  
レポートを持ち寄って検討、情報交換
- 12/18(木) 第4回教育課題検討委員会 会場：生坂中学校  
研究・実践のまとめ  
今年度の活動の振り返り、来年度のテーマについて

## 4 研究の成果と課題・反省

## (1) 成果

- ・ 情報共有を通して互いに近い状況の中で取り組んでいることを知ることができ、方策や願いなど参考になることが多かった。小規模校の集まりということで共通した学校課題が多く、それぞれの学校の取り組みが参考になり、自校へ持ち帰って紹介することもできた。
- ・ 同じ校種の取り組みは実践できるものもあり有意義だった。北部の児童生徒について結束してより良くしていこうとするチームワークも生まれたと思う。
- ・ 不適応等の子どもたちへの支援のあり方をテーマとしていたため本校の支援体制をより効果的なものにするよう意識しながら先生方へ支援時間や支援学級について提案し、スケジュールを組むことができた。

## (2) 課題・反省

- ・ 学校同士の連携をより図っていくための方法を考えたり、時間の確保をしたりできるとよい。
- ・ 同じ村内の小中でのつながりがある活動、話し合いはできるが、北部6校として何かに取り組むとなると様々な障害があり、難しい面もある。

## (3) 教育課題検討委員会 来年度のテーマ

- ・ 北部の各校の実情から浮かび上がる北部の学校ならではの教育課題（地域との連携、小規模校の良さや課題等）をテーマとしていく。

## 5 運営上の課題と来年度への要望

- ・ 参集という面での大変さがある。データをあらかじめ送る、画面共有で情報交換する等オンラインでの開催も検討していく。
- 来年度の活動を計画する中で、参集の良さ、オンラインの良さを生かして開催方式を検討していきたいとよい。

## 6 研究内容

(1) 研究主題設定にかかわって

本委員会は、北部三村の六つの小中学校の教務主任の先生方が顔を合わせ、地域の良さや抱える課題、悩みを共有する中で、「北部の子どもの自立に向けての支援のあり方と、教務主任としてのマネジメントのあり方」をテーマに掲げ、以下の4つを具体的な検討内容として活動してきた。①～④に関わる各校での実践を紹介する。

- ①不適応等の子どもたちへの支援のあり方
- ②職員間や地域との連携のあり方
- ③小規模校の強みを活かした取り組みや小規模校ゆえの課題
- ④小中の連携、小中一貫の取り組み

(2) 各校の実践から

麻績小学校

①不適応等の子どもたちへの支援のあり方 ②職員間や地域との連携のあり方に関わる実践  
<支援体制>

支援員	5名	… 連学年担当（1名、図書館司書兼、1名音楽専科兼）
介助支援員	2名	…車椅子介助（1名は業務支援員兼）
図工支援員	1名	
外国語支援員	1名	
ALT	1名	

今年度、本校の重点研究テーマとして「基礎学力の定着」が掲げられており、学力の底上げを図るために国語、算数の授業はどの学年も支援員が入っている。困り感のある児童に対する指導の手が増えたり、担任が気づかなかったことにも早めに気づけたりするので、迅速かつ適切に支援に入れることが多い。また、担任が出張、研修等で教室を空ける際、支援員が担任の計画した補充計画に則って時間割を進めていくことがある（授業を進める、ということはまだだが）。担任も安心感を持って教室を空けることができる。

課題は、支援に伴う共通理解を担任と支援員とでどう図っていくか。担任と支援員との連携のすりあわせが難しいと感じることもあり、支援員の子どもへの指導の仕方や関わり方を綿密にコミュニケーションをとる場の設定がもっと求められると感じた。打合せの時間がしっかりとれるといいが、そういかないこともあり、支援体制を効果的に進めていくには共通理解を図る時間や手段を考えていく余地がある。

<支援員が学年会に参加>

- ・ 向こう2週間分の日課、支援時間確認
- ・ 全校の配慮を要する児童、気になる児童の様子や、指導の様子、家庭との連携について等情報交換をし、次週の支援の方向、学級担任との連携について確認したり検討したりする。個に応じた担任と支援員の指導体制や役割分担がより明確になるようにした。

3. クラス・子どもたちの様子

(できる限り学年会前までに入力していただくとスムーズに進められます)

担当	特記事項（あれば記入しておいて下さい）良かった所も伝え合ひましょう！
1 学年 小松	
2 学年 伊藤先生	
聖学級 西沢先生	
図書・支援 宮下先生	
支援員 津田先生	

支援員にも気になっている児童の姿を記入していただき、情報共有

<PTA 役員と連携し、PTA の活動をマネジメント>

- ・行事や学習に、PTA のボランティア活動を（積極的に）取り入れた。
- みどりの日（全校遠足）、マラソン記録会、スキー教室、総合的な学習（ふるさと学習）などへの支援を呼びかけ、協力していただいた。

<例>



学校みどりの日(全校遠足)での安全支援



運動会で踊る地域に伝わる踊りの指導



スキー教室での児童への技術指導、支援



生活科(1年生:調理実習・親子学習)



総合的な学習の時間(3年生:太鼓学習)



総合的な学習の時間  
(5年生:田んぼ作り脱穀)

- ・より多くの人に見守られながら、地域、保護者と関わる機会が増えることを通して、生活や経験、様々な人との関係を広げることができている。

### 筑北中学校 ①不適応等の子どもたちへの支援のあり方 ②職員間や地域との連携のあり方に関わる実践 ～職員間の連携～

#### ○朝の出欠確認

Google forms での出欠確認→全職員が確認可能

- ・生徒指導主事、教務主任（本年度は兼務）による始業時間時の昇降口での生徒の出欠確認  
→学年職員と情報共有（連絡のない生徒宅への連絡）
- ・学校長、教頭、事務との情報共有→必要に応じて学年に指示

#### ○学年内朝会

- ・毎朝始業前、学年で集まり1日の連絡事項や指導すべきことを確認する。

#### ○保健室来校生徒の対応

- ・養護教諭より職員室へ連絡（内線）→学年職員で対応

#### ○不登校傾向の生徒への対応

My Study Room の開設（スライド内に担当職員を配置+AM 支援員）

- ・教室に入りづらい生徒、遅刻して途中から授業に出にくい生徒の対応
- ・教室に入りづらい生徒については、登校後 My Study Room に行き、1日の予定を立て Google Chat で全職員に周知
- ・担当職員、学級担任は予定を見て1時間の授業（教科授業、相談等）を行う。1時間終了後、記録を残し、担任や次時の担当職員に引き継ぐ

日付 ( ) ( ) ( ) 名所

授業心構え	私が起こす場所	教室以外の場所、その予定	外部のメンバー
1	<input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> MSR <input type="checkbox"/> その他		
2	<input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> MSR <input type="checkbox"/> その他		
3	<input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> MSR <input type="checkbox"/> その他		
4	<input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> MSR <input type="checkbox"/> その他		
～楽しい時間～			
5	<input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> MSR <input type="checkbox"/> その他		
6	<input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> MSR <input type="checkbox"/> その他		

学日の自分

がんばっだ 東海まあ いっしょ

1 ☆必要に応じて行を追加してください。  
☆選択肢にない生徒の場合は、セルのプルダウンを削除し、手入力してください。

日付	生徒氏名	利用時間							実施内容・生徒の様子 (前に【】で時間、担当者名を記入)	備考
		1限	2限	3限	4限	5限	6限	その他		
8	12/4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			4時間目の残り10分ほどで登校しました
9	12/8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		雑談	3SUN体験、5音楽、6総合
10	12/10	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		お絵かき	3技家、5国語
11	12/12	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		ぐーんとやさしく数学、お絵かき、雑談	4音楽、5.6福祉交流

### ～地域との連携～

○総合的な学習の時間「ふるさとに生きる」

1 学年…「ふるさとを知る」

- ・ 聖山登山
- ・ 聖湖博物館見学
- ・ 地元の福祉施設での交流学习



2 学年…「ふるさとで働く」

- ・ 麻績村商工会の協力を得て職場体験学習
- ・ 麻績村の現状と課題の調査活動



3 学年…「ふるさとの発展を目指して」

- ・ 個々でテーマを設定し、探究を進める
- ・ 地元の企業に協力いただきレストランで販売するメニューを開発。企業キャラクターを考え商品化し販売したりした。



### ～PTA と協力して～

- ・ PTA 親子作業
  - 9月の第1土曜日に保護者の方と生徒で校庭の草刈りを行う。→作業終了後、生徒は授業
- ・ 親子ふれあい講座
  - 地元の方を講師に迎え、親子で同じ講座を選び活動を行う。

## <成果と課題>

- ・職員との連携は、毎日の連絡会で概ね多くの職員と関わり合いながら指導に当たることができた。
- ・Google Chat での連絡は、次々に連絡を上げると必要な連絡が流れてしまい、見つけることが困難な場合があった。
- ・総合的な学習は、ふるさと学習に多くの時間を当ててしまい、その他の活動（キャリア教育など）をおろそかになってしまうことが見られた。

## 筑北小学校 ③人数の強みを生かした取り組みや少人数故の課題 に関わる実践

### (1) 縦割り班（1～6年生、12班で構成）による諸活動

#### ・縦割り清掃

6年生が中心になって分担を決め、2週間ごとに場所を変えて清掃。上級生の責任感が強くなり、教え合う姿が多く見られた。

#### ・つながる時間

水曜日の下校時刻までの約15分間、異学年交流を目的として活動。昨年度遊びが中心だったが、形骸化しつつあり、班で考えた遊び以外に、読み聞かせや児童会企画も取り入れた。各班に職員がつくが、出張等による職員不在時、調整が困難だった。班のメンバーを通年としたことで、より交流や相互理解が深まった。



#### ・つながるミーティング

縦割り班をベースに、学校生活の振り返りや諸問題を考える場、様々な活動の提案など、学期に1～2回程度子どもの考えをフィードバックする機会を設けた。話し合いに慣れていないことや自分から伝えることの困難さ（互いをよく分かっているため、はっきり伝えなくても何となく通じてしまう面もある）が課題として残る。



### (2) 全校での活動と児童会企画とのタイアップ

#### ・全校給食

保健・給食委員会で、内容や献立、BGM等を考えて実施。

- ・全校大縄…学年ごと5分間で跳べる回数を、他学年を意識しながら行っている。一堂に会して行えることが大きなメリット。



### (3) 音楽会での全校合奏



6年生児童による発案で、数人でプロジェクトチームを立ち上げ、全校に呼びかけたり、自ら学校長に承認を得たりすることで実現した。楽器分担や楽譜アレンジは職員と相談し、学年練習や学年合同練習など練習形態を工夫した。朝の時間や学級活動、つながる時間（上記）を使って本番に臨んだ。全校が一体感や成就感を得られる活動になった。楽譜の準備や時間調整等、困難な面もあった。

## ○成果と課題

縦割り班などは、コンパクトで運用が容易であり、子どもの声が反映しやすい、一堂に会して活動できるといった良さがある。反面、お互いを知っているのも、細かく伝えなくても伝わりやすい、上級生がフォローしやすいことで、自分から伝えることに課題を感じる。手厚い支援が可能なため、過度な支援をしないような配慮も必要である。

聖南中学校 ①不適応等の子どもたちへの支援のあり方 ③少人数の強みを生かした取り組みに関わる実践  
 ～配慮を要する生徒への支援に関わって～

- ・職員スライドの中に『対応』スライドを設け、別室生徒への対応を組織的に実施
- ・スマイル教室（校内中間教室）、和室、保健室での対応の支援
- ・グーグルフォームのMEETでの授業参加の支援や一日の過ごし方の確認
- ・専用ファイルに授業の様子を記入し、担当職員で回すことでの情報共有
- ・HOME & SCHOOLで生徒の出欠確認をし、職員室の出欠ボードにリアルタイムで確認

～少人数の強みを生かした取り組みに関わって～

- ・実践 ○あずまやタイム・全校道徳・どっこい清掃等での異学年縦割りグループでの活動
- あずまやタイム：年間通して35時間設定（11月ウォークイベント・2月活動報告会）

活動内容

- ①歴史探究（善光寺街道ウォークイベント開催、パンフ地図作り）
- ②伝統芸能（あずまやこだま太鼓・篠笛の発表練習など）
- ③郷土食（筑北プレートの制作：ジビエ、西条はくさい、坂井いちご）
- ④地域産業（スペルト小麦の栽培、健康・アレルギーなどを考慮したレシピ紹介）

⇒テレビ松本・松本市民タイムス・信濃毎日新聞・SBCラジオでの広報

○全校道徳：9班編成を毎月変更し、水曜日1時間目に9つの会場にて授業を毎月実施

○どっこい清掃：26ヶ所の清掃分担を2ヶ月ごと変更

- ・課題 異学年維持、グループでの活動が多いため、学級単位での活動が少なくなりがちになる。  
 特に、1学年の学年総合に費やす時間を確保しにくい現実がある。



## 生坂小学校 ④小中の連携、小中一貫の取り組み に関わる実践

小中一貫教育推進委員会（生坂小学校、生坂中学校合同）で以下のようなグループを構成し、情報交換を行い、計画を立て活動に取り組んだ

グループ	ア	読書活動	イ	給食・保健	ウ	音楽・図画工作・英語
	エ	児童会・生徒会・特別支援	オ	Ikusaka 学・いくさか学		

活動の様子について紹介 ～読書活動グループ～

○読書旬間中、小学校のメディア委員会が企画し、給食の時間に zoom（小中同時生放送）で本の紹介を行った（おはなし給食）。小中で校舎は離れていても、本に関心を寄せるすてきな時間を過ごすことができた。昨年度の「早く終わってしまって物足りなかった。」という中学校側の反省を受け、生坂小学校ニュースを取り入れた。中学校でも小学校の様子を知ることができて好評だった。来年度は、中学生に登場してもらい、中学校ニュースを流していきたいと考えている。

○6年生国語の学習で「ビブリオバトル」に取り組むのに当たり、中学校の先生方と連携をとった。

7月2日

- ・開催に向けて、ビブリオバトルとはどういうものかを、小中教員をバトラーにして示した。
- ・担任、教頭、支援員、中学校国語科教員でバトル。



7月16日

- ・国語の授業の中で、本を決めたり、ビブリオの文章を考えたりをした。そして、7月16日に学年予選会を図書館で開催。代表者1名決定（小6A児）

9月26日

- ・中学校文化祭で開催されたビブリオトークに、小学校6年生から1名参加。
- ・中学生2名×3学年（6名）＋中学校教員1名＝計8名
- ・他の6年生は、観客として観戦。中学生、教員、保護者とともに投票を行った。
- ・小中が互いに刺激を受け充実した時間になった。中学の先生と交流ができたこともよかった。



## 課題

他の教科では、連携が継続できなかったので、先生方の考えを聞きながら、お互いの学校に出向き、授業参観をしたり、授業を行ったりできるよう、年間予定表や年間指導計画に位置づけていきたい。また、すでに実践している学校から学んでいきたい。

## 生坂中学校 ④小中の連携、小中一貫の取り組み に関わる実践

生坂村では、生坂村一貫教育基本方針を踏まえ令和6年度より施設分離型小中一貫型小学校・中学校による一貫教育が始まった。小中一貫推進委員会運営計画に基づき以下のような取り組みを行っている。

### 1 小中一貫推進委員会の目的

- (1) 「Ikusaka 学」「他地域との交流学习」「豊かな人間関係づくり」「多様な教員との関わり」「自ら学びを生み出す授業」「その他」の各項目について、具体的な教育内容を協議する。
- (2) 小・中学校にとって無理のない教育内容や活動から取り組んでいく。

## 2 活動内容（小中一貫推進委員会のみ抜粋）

活動	時期	詳細
小中一貫推進委員会		(会場は、小中で交互に開催)
①第1回 地域めぐり	5月 2日 (金)	①新年度の村教委、小・中職員での顔合わせ。 方針の確認、総合的な学習に向けた地域巡り研修
②第2回 (中) 講演会	6月 17日 (火)	②保護者、地域、教職員研修講演会(信大・伏木先生)
③第3回 (小) 研修会	9月 1日 (月)	③全国学力状況調査 生活質問紙 分析研修
④第4回 (中) 研修会	10月 7日 (火)	④NINO・NRT バッテリーの分析研修・移行支援会議
⑤第5回 (中) 講演会	12月 15日 (月)	⑤小中一貫教育講演会(信大伏木先生)、振り返り
⑥第6回 (小) 討議	2月 3日 (火)	⑥次年度へ向けての提案と討議
グループ係会	小中合同推進委の中で	合同活動の検討、日程や内容の確認・調整等

3 小中一貫推進委員会 グループの活動・・・小学校の実践をご覧ください。

4 Ikusaka 学の取り組みについて

小中一貫教育の目的や、教育内容にも挙げられている「Ikusaka 学」（本年度は総合的な学習の時間を主に運用）。小学校は今年度スタートし、中学校では2年目となった。

～1学期から9月期～

1年生は、龍翔太鼓（地域の伝統文化）とぶどう栽培（地域の主要産業）について体験を通して学んだ。2・3年生は地域ゲストをお呼びし、お話を聞いたり、インタビューをしたりした。課題と一緒に取り組んだり、フィールドワークに出かけたりしつつ、活動の中で探究に必要なスキルについても学んでいった。また、生坂村を研究フィールドにされている大学の先生と課題に取り組むことを通して、身近な環境の素晴らしさを再確認することもできた。

～2学期～

1年生は体験的な活動を継続しつつ、龍翔太鼓とぶどう栽培についてテーマを決めて3つのグループに分かれ探究した。2, 3年生は9月から課題設定を始め、以下の探究テーマを立て、個人・グループ探究に取り組んだ。



1年生	○ 龍翔太鼓 ○ ぶどうの育成 ○ ぶどうの歴史
2・3年生 個人探究 グループ探究	○ 生坂でエコ発電
	○ 生坂の動物
	○ 生坂のゴミアート
	○ 生坂のCafe探究
	○ 生坂の映えスイーツ開発
	○ 生坂の「水」研究
	○ 生坂で水切り Enjoy

### 11月20日のIkusaka学発表会の様子



プレゼン方式で発表



個人・グループでの発表



来場者はメッセージカードを記入



来場者からメッセージをいただく



たくさんの人がメッセージを届け



地域の方からの声が直接届きます

生坂小学校・中学校 小中連携の深まりに向けて

6月と12月に、信州大学教職大学院の伏木久始先生にお越しいただき、小中一貫教育の意義や教職員のあり方について学んだ。「小中一貫教育の本質は、校舎形態ではなく、義務教育9年間を一つの発達の連続体として捉え直す視点にある。小学校・中学校それぞれの慣習や「当たり前」を問い直し、指導・生活・評価を一貫させることが求められている。」というお話をいただいた。今後小中9年間を見通したカリキュラム作りを進める中で、Ikusaka学での小学校での学びが中学校での学び(探究)の土台となり、小中の教職員が互いの学びを共有し合って、子どもたちの姿を見守っていかれるよう、さらなる連携を進めていきたい。

#### (3) 各校の実践から示唆されたこと、来年度に向けて

- ・ 小規模・過疎化の進む地域で不登校になっている生徒へのサポートのあり方について、さらに検討が進められるとよい。
- ・ 小中間の連携について、9年間を見通しながらさらに組織的に考えていけると良い。
- ・ 具体的な4観点で考えられたことはよい。取り組みやすかった。
- ・ 不適応等の子どもたちの支援についてはどの学校でも課題となっていることと考えられるので、引き続きテーマの1つとしてあげても良いと思われる。

## 書道展委員会活動報告書

### 1 委員氏名

世話役 桔梗小学校 吉越 秀之校長先生  
 委員 ◎今井 洋子（桔梗小） 宮島 恵理（吉田小）  
 古川 真美（広陵中） 青木 健太郎（筑北中）

### 2 研究主題

児童生徒の書写力・鑑賞力を高め指導者の資質の向上を図るための、県展の審査の企画・運営。

### 3 活動の経過

5月29日（木） 第1回委員会  
 ・年間計画の確認 ・巡回展廃止について確認  
 9月 30日（火） 第2回委員会  
 ・県展の審査  
 12月23日（火） 第3回委員会（C4thにて情報共有）  
 ・本年度の反省

### 4 研究の成果と課題・反省

#### （1）成果

- ・巡回展を廃止したことで、作品搬入の負担が大きく軽減した。
- ・県展の審査日では、桔梗小吉越校長を講師とし研修を行ったことで、審査の基準が明確になり、進めやすかった。
- ・各校の作品を鑑賞しながら県展審査を行ったため、会員の資質向上につながった。

#### （2）課題・反省

- ・県展審査（研修）と郡展についての通知を同日に行うため、各校1名の参加が望ましいが、学校公開や中学校の文化祭と時期が重なり難しかった。日程の検討が必要である。

### 5 運営上の課題と来年度への要望

- ・前年度の委員が残っていると様子が分かっていて作業が進めやすい。
- ・郡展入選作品の展示を各校に任せたため、展示期間や校内審査の基準などを細やかに通知しておくとうよかった。
- ・県展審査には、各学級1点を持参し、選抜入選・入選作品を選ぶ。その枠に入らなかった作品は郡展入選とする。
- ・県展の出品名簿を事前にC4thで送ってもらうことで、作業の効率化を図れた。来年度も継続したい。
- ・巡回展の賞状は、予備を含め340枚ほどあればよい。

- ・賞状の予備を各校に3～4枚入れたが、それでも足りない場合は委員長の学校か会館に問い合わせさせていただく。委員長の学校で予備を保管しておく。
- ・委員にはできるだけ書写書道教育研究会へ参加してもらい、県展審査の運営にあたる。

※今年度も委員会の度に、塩筑教育会館の先生方に大変お世話になりました。おかげさまで作業等がはかどりました。ありがとうございました。

## 6 研究内容

### ○郡展について

- ・授業の中で、ねらいをもって書いた児童・生徒のすばらしい作品を見合うことは、書写への意欲を高めるためにとっても有効だと考える。巡回は廃止したが、各校で展示していただき、多くの児童・生徒に展示作品の鑑賞をしていただきたい。
- ・出品点数は特別支援学級も入れて各学級1点とした。児童生徒の励みにもなるので、来年度も同じような形で募集をしていきたい。

# 科学展委員会活動報告書

## 1 委員氏名

〔世話係〕 米窪 治紀（宗賀小）

〔委員〕 ◎丸山華代（朝日小） 上條隆久（桔梗小）  
大武宗胤（吉田小） 宮入新太郎（生坂小）

## 2 研究主題 「科学教育の振興と探究的な児童生徒の育成」

## 3 活動の経過

- |           |                                |             |
|-----------|--------------------------------|-------------|
| 5月29日（木）  | 研究計画の作成                        | （第1回科学展委員会） |
| 6月10日（火）  | 郡展の募集要項の検討、県展募集要項の確認           | （第2回科学展委員会） |
| 6月16日（月）  | 郡展作品応募通知及び県展作品募集通知を各校にメールにて送付  |             |
| 7月27日（日）  | 郡展作品目録記入表出品票及び県展出品票を各校にメールにて送付 |             |
| 9月 2日（火）  | 県科学展地方審査                       | （第3回科学展委員会） |
| 9月 9日（火）  | 県展出品作品応募フォームを県教育委員会へ送信         |             |
| 10月 3日（金） | 郡展賞状の配布（郡校長会にて配布）              | （第4回科学展委員会） |
| 12月12日（金） | 郡科学展巡回作品の返却、本年度の反省             | （第5回科学展委員会） |
| 1月13日（月）  | 塩筑教育研究発表会発表                    |             |

## 4 研究の成果と課題・反省

### (1) 成果

- ・小学校は、例年よりも多い出品数があった。  
【出品数】小学校：175点（R6：170点 R5：151点）  
中学校：0点（R6：0点 R5：2点）
- ・粘り強く丁寧に継続してきた研究があり県展に出品することができた。また、巡回展で他校の作品を紹介することで興味関心を高める一助となった。県展は、豊科南小学校を会場に開催された。

### (2) 課題・反省

- ・小学校では科学に限定しない自由研究なので、質・量ともに十分とはいえないことが課題だと感じる。
- ・小学校低学年では、研究として取り組むのは難しいと思われるが、科学的な要素が含まれていれば生活科などの取り組みも出品可能ということをさらに周知していきたい。
- ・中学校では自由研究を課しておらず科学部頼みの面があり、出品はなかった。研究に取り組むことはどうしても時間的制約があり難しい。しかし、夏休みに自主課題の1つと

して取り組めるようにするなどして、出品数増加につなげられるようにしたい。

## 5 運営上の課題と来年度への要望

### (1) 運営上の課題

- ・授業が探究型になってきて、児童生徒が自分で課題を見つけて追究することが当たり前になると思われる。今後、もっと調べたくなくて自由研究が盛んになるのか、それとも授業で探究心を満たされて自由研究が衰退するのかで、科学展のあり方が変わるかもしれない。
- ・例年、県展地方審査の第3回科学展委員会が、出品者情報の提出期限にぎりぎりとなっ  
てしまっている。各校の負担を考えると、9月上旬だが、いつやるべきなのかを今後も  
検討していきたい。

### (2) 来年度への要望

- ・賞状の印刷枚数を多めにお願いしたが、余り過ぎてしまった。書き損じ等で各校から追  
加の依頼があることを考えて、多めにお願いしたが予算がもったいない。（来年度は、  
250部くらいで良い）年度や会長名などをなくしてお願いできれば、余った賞状は次  
の年に使えてコストダウンができそう。また、賞状印刷する際のひな形があれば、各校  
で簡単に印刷ができると感じた（手書きで書いてくださる学校もあるかと思いますが、  
年月日、会長は印刷できるといいと思う）。
- ・今年度は、昨年度から多くの委員が変わったが、委員長経験者が委員のメンバーであっ  
たため、昨年度の様子を確認しながら運営を行うことができた。また、筑北方面の委員  
を出していただいたため作品などの運搬をスムーズに行うことができよかった。
- ・中学校からの出品は今年度もなかったが、今後も中学校との連携も大切に運営を行って  
いきたい。

## 6 研究内容

- ・郡巡回展は、小学校3ブロック、中学校1ブロックで行っている。委員がいる学校や近  
くの学校を最初と最後にするとよい。
- ・郡巡回展の中学校の巡回展は、全ての学校を巡回するような計画でよい。北部と南部の移動  
の期間は長めにして作品移動に余裕をもたせたい。
- ・郡巡回展小学校作品のブロック分けは、ブロック外の学校の作品を見合えるようにした。
- ・巡回展の作品の大きさを令和元年度に新しくした。来年度も作品の大きさを守っていただ  
けるように引き続きお願いしていく。
- ・巡回作品への評価は、各学校で○をつけていただく方向で来年度も進めていく。巡回作品の  
評価は、例年通り「○」の数が2～3になるようにする。
- ・各校からの目録の提出は、C4thでデータを送っていただき、運営しやすかった。

## 美術展委員会活動報告書

### 1 委員氏名

◎北村 知香（片丘小） 町田 恵美（洗馬小） 上條 達矢（丘中）  
山本 雅也（檜川小中）  
世話係 召田 和美（片丘小）

### 2 研究主題

各校の児童生徒の作品研究を通して、児童生徒の表現に対する見方の幅を広げる。  
巡回展を通して、各校の取り組み、児童生徒の作品のよさを各校に広め、日々の指導に生かせるようにする。

### 3 活動の経過

- 第1回 5月29日（木）各種研究委員会全体会、第1回美術展委員会  
本年度の事業計画作成 【会場：教育会館】
- 第2回 10月9日（木）第2回美術展委員会  
県展・今を生きる子どもの絵展打ち合わせ  
巡回展要項の確認 【会場：片丘小学校】
- 第3回 10月17日（金）第3回美術展委員会  
長野県児童生徒美術展・今を生きる子どもの絵展  
地区審査への協力と作品研究会  
東筑摩塩尻巡回美術展についての説明、資料配布  
【会場：吉田小学校】
- 第4回 11月7日（金）第4回美術展委員会  
東筑摩塩尻巡回美術展（郡展）準備  
児童生徒作品研究会 【会場：教育会館】
- 第5回 1月26日（月）第5回美術展委員会  
東筑摩塩尻巡回美術展作品返却準備  
本年度の反省 【会場：片丘小学校】

### 4 活動の成果と反省

#### (1) 成果

- ・巡回美術展は、昨年度からすべての小中学校の作品を合わせて、4ブロックに分けて巡回している。地区内の児童・生徒、先生方にそれぞれの作品、題材の良さや面白さを感じていただくとともに、小学校、中学校での学びや9年間での子どもたちの育ちを感じていただくことができた。グループに分かれての鑑賞では、小学校、中学校どちらの作品も見ることができたので、気になる作品についての意見交換など作品を通しての小中の交流ができとてもよかった。
- ・児童生徒作品研究会では、塩尻市教育センターの村上啓先生を講師にお招きし、指導していただいた。県展や今を生きる子どもの絵展の入選作品から、人の目を惹き

つける作品について紹介・解説していただいた。作品づくりから造形活動そのものに重きが置かれるようになり、クラスで統一したモチーフや素材を描くのではなく、それぞれの子どもの「らしさ」を大切にしたい表現が増えてきている図工・美術の現状をお話しいただいた。

- ・今年度は入選作品など展示されない作品について、多くの人に見てもらえるようにC4thでの配信をし、鑑賞に活用してもらった。（県美事務局と連携）

## (2) 課題、反省

- ・巡回展の出品作品は傷んでしまうことがあるので、心配な作品については写真にとって印刷したものを出品してもよいことにしたが周知されていないように感じる。説明の際に伝えていくと共に、立体作品についてもそのようにして、見てもらう機会をつくっていききたい。

## 5 運営上の課題と来年度への要望

- ・第2回委員会の際、県美事務局の先生に参加していただき、審査手順の説明等地区審査の打ち合わせを行った。（今年度は委員が事務局だったため、派遣申請はなし。）
- ・巡回美術展準備の日に、県美の大会、関ブロの大会が重ならない日程で行っていききたい。
- ・県展、今を生きる子どもの絵展の地区審査の際に、巡回美術展の説明をし、各校に要項と賞状を配布したが、届かなかった学校があったようなので、確実に届くようにしたい。

### <次年度への申し送り事項>

- ・第2回、3回の美術展委員会は、県美の事務局と相談して決めなければならないため、第1回までに連絡をとっておく必要がある。
- ・第2回の委員会において、県美事務局の先生に参加いただき、第3回の地区審査の打ち合わせを行うように計画する。その際、県美事務局の先生方の派遣申請を教育会事務局へも提出する。（事務局が委員であれば提出の必要なし）
- ・巡回美術展の要項を配布する際、各校で受付、回議してもらうよう確認する。
- ・巡回美術展準備として、作品展示用の耳に使う白ボール（60cm×5cm、45cm×5cm）が足りない場合は購入しておく。

## 6 研究内容

○「東筑摩塩尻図工美術作品巡回展」の企画・運営

○「児童生徒図工美術作品研究会」の企画・運営

○長野県美術教育研究会の「長野県児童生徒美術展」、信濃教育会の「今を生きる子どもの絵展」地区審査への協力と作品研究会

※美術展に出品することを想定して制作（指導）にあたる作品の題材は、教科書題材や従来の題材を含め、幅広く取り入れていきたい。

※各校の作品が集まる場での作品研究会は、指導する側の学びの場にもなるので、図工・美術を専門とする先生以外にも参加してもらい、子どもたちに還元してもらえるとありがたい。



- ・委員会の回数においては、丁度良かった。内容においても、特に問題になることはなく会を進めることができた。
- ・予算は、来年度も今年度並みでよいと思われる。

## 6 研究内容

- ・応募総数は七十四編あった。学校ごとに感想文の書き方指導を行っていただき、作品を書き上げてきた。読書離れが進んでいるといわれている中でも、各校で丁寧な読書感想文の書き方の指導がされていた。

## 会誌・会報委員会活動報告書

### 1 委員氏名

- ◎ 元田 武久（両小野中）      大越みずほ（塩尻東小）      村田 綾香（広丘小）  
市田 祐基（宗賀小）      市川 隼也（丘中）      小口 亮（広陵中）  
伊藤 未波（麻績小）

### 2 研究主題

会員の活躍が伝わるような会誌・会報の作成に努めたい

### 3 活動の経過

- 5月29日（木） 第1回 委員会（顔合わせ・今後の活動の見通しの確認）  
6月13日（金） 教育会代議員会にて会報143号原稿依頼のお願い（委員長）  
※6月～7月にかけて適宜、C4THを用いた会報143号の原稿回収・校正チェック  
7月15日（火） 会報143号 発行  
8月20日（水） 塩筑教育会 総集会取材（講演会・会員発表 他）  
9月 2日（火） 第2回委員会（総集会の原稿を点検・校正 等）  
9月18日（木） 教育会代議員会にて会誌55号の原稿依頼のお願い（委員長）  
※10月～12月にかけて適宜、C4THを用いた会誌55号の原稿回収・校正チェック  
2月20日（金） 会誌55号発行（予定）

### 4 研究の成果と課題・反省

#### (1) 成果

- ・会報143号を7月に発行することができ、総集会のパンフを掲載できた。
- ・会誌55号を代議員会の折に、代議員の先生の持参していただくことができた。
- ・今年度より、会報を年1回にしたことで、委員の負担が軽減できた。
- ・C4THを多用して、委員の先生方に参集していただく回数を減らすことができた。

#### (2) 課題・反省

- ・執筆者の先生方に、原稿提出の際には学校長や世話役、委員長の先生に確認していただくという旨の連絡が遅れてしまった。
- ・提出していただいていたのに、未提出の連絡をしてしまった先生が3名いたため、確認をしっかりと行ったうえで連絡するようにしたい。
- ・会誌に使用する挿絵について、もう少し早く依頼すべきだった。

### 5 運営上の課題と来年度への要望

- ・委員会を開催して参集すると、委員の先生方にとって時間的な負担が大きく、できるだけC4THを活用して行ったことで負担軽減をはかった。今後、C4THでのやり取りでも手当てが出せるように検討していただければとありがたい。
- ・今年度のように会報を夏休み前に発行するのであれば、第1回の各種教育委員会全体会（発足会）をもう少し早い時期に行っていただくのがよい。

### 6 研究内容

会報143号、会誌55号をご覧ください。

## 情報ネット委員会活動報告書

### 1 委員氏名

世話係 野口 隆徳（筑北小）

◎ 鈴木 百合恵（広丘小） 田上 由麻（塩尻中） 小出 猛世（筑北小）

### 2 研究主題

教育会の活動を広く紹介する。

### 3 活動の経過

- ・第1回委員会5月30日（木） 会場：教育会館  
全体会 本年度の活動計画の検討
- ・第2回委員会6月25日（火） 会場：教育会館  
HPの作成講習会 仕事の分担
- ・第3回委員会11月1日（金） 会場：各学校（C4 t h）  
今年度の活動内容についての反省（アンケート調査の実施）

### 4 研究の成果と課題・反省

#### (1) 成果

- ・教育会の年間活動予定をもとに、ホームページに記載したい内容を決めた。「自主研修の日」については、各委員会から提出された報告書をもとに、随時ホームページにアップすることができた。各委員会での取り組みを広く紹介することができた。

#### (2) 課題・反省

- ・「自主研修の日」については、報告書をもとに記事にすることで各委員の先生方の負担を減らすことができた。ただ、報告書と写真が別のデータだと、手間がかかる面もあった。
- ・記事をアップした後の確認が不足していたことがあった。アップした記事が確実に上がっているかどうかしっかりと確認するようにしたい。

### 5 運営上の課題と来年度への要望

ホームページに情報を随時掲載しているものの、誰がどれだけ閲覧しているのか把握できず、写真の提供など多くの先生にご協力いただいても、それがどれほどの人に伝わっているのか、どれほどのニーズがあるのか分からない現状がある。年度当初のみ、活動計画を示す形でもよいのではないかと。